

教師の仕事はブラックなのか？

小中学生の就きたい職業ランクで5番以内に位置していた教師がベストテンぎりぎりの状況にあります。

中学校の教師であれば、その教科のおもしろさ、学校行事など学校生活で味わう感動、部活動で身に付く力、そういう自分自身が経験したことが教師を志す理由になります。教師は子どもの人間的な成長をサポートしたり、子どもとの出会いを通して自分自身の成長も確かめることのできる魅力ある職業です。

しかしながら、教師の仕事は休みがなく、さまざまな苦情対応やストレスのかかる仕事でブラックだというような報道がなされ、若者の教師離れが少しずつ進んでいます。確かに私自身、三十数年の教師生活を振り返ると、19時過ぎまでの部活動指導、その後に生徒の家庭への連絡や翌日の授業の準備等で気がつけば21時を過ぎている。土曜や日曜も部活動の大会や指導で休みをあまりとっていない。生徒指導で連日家庭訪問、帰りが深夜に及ぶということもありました。ただそのときは、目の前のことで一生懸命でした。

現在はそのような無茶な勤務状況を改善するために、働き方改革が提唱され、さまざまな手立てがとられています。しかし、先生方は基本的にまじめであり、何事にも手を抜かずやり遂げようとします。授業の準備だけでも2～3時間はかかることが多いです。「100パーセントばかり求めたら自分が潰れるから、無理はしない。」と助言するものの、やはり帰宅時間が遅くなる先生も多いのが実情です。これからコンクールや中体連に向けてさらにがんばりだすと、疲労の度合いも心配です。管理職としては教師としての成長や子どもたちの成長のためには、先生たちをがんばらせたいけれど、がんばり過ぎるのも心配であり、難しいところです。

保護者の方に一つだけお願いするとしたら、若い先生方の成長を見守っていただくことです。経験の浅い先生は、ベテランと比べて技量はまだ不十分ですが、子どもたちへの思いや関わる情熱はベテランに負けないものがあります。中学生の子どもたちは、そういう先生の意気込みをよく感じて、それに応えてくれます。そういう関わりを保護者の方に温かく見守っていただくと、学校としてはありがたいです。どうかよろしくお願いします。

子どもたちにとって、学生時代の先生との出会いは一生の宝物になることがあります。本校の教職員には、そのようなよき出会いを築くように求めています。教師は魅力ある職業だと、子どもたちにも感じてもらえるよう精進します。